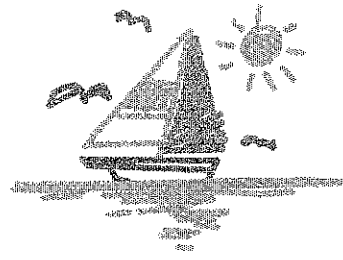


わかやま



2000年7月

和歌山県精神保健福祉センターだより

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319

和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

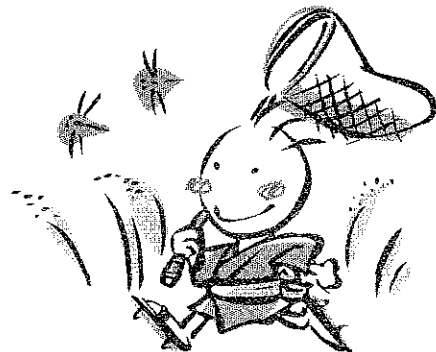
電話(073)435-5194 FAX(073)435-5193

「身近な精神保健福祉センター」

和歌山県立医科大学名誉教授

東 雄 司

和歌山県精神保健福祉センターだよりを拝見してとても嬉しく思います。今までは県民にとってもセンターの存在すら知らない方が随分いたのではないのでしょうか。昭和42年精神衛生法改正にて全国的に設置されたセンターは、どちらかといえば精神科の医療機関の出先のように、保健所とともに精神疾患の早期発見、早期治療、再発予防などの住民への保健指導が主役でした。しかしながら、精神保健法、精神保健福祉法と法改正が続いて、精神科医療も地域に次第に開かれ、精神障害者もノーマライゼーションの対象となり、県下にはすでに18カ所の精神障害者のための共同作業所や各種の社会復帰施設や生活支援センターが開設されています。14年前にはじまり、民間人の草の根運動の成果である社会福祉法人麦の郷は今回、世界心理社会リハビリテーション学会からベストプラクティス（優良実践施設）として評価されましたが、そこでは精神障害者のみならず、障害を持つ幼児から高齢者まで地域におけるニーズに応じて、身近なところで生活支援活動が続けられています。これもセンターをはじめとする保健、医療、福祉関係機関の多専門職種の方々、そしてボランティアによるネットワーク、つまり地域の精神保健福祉チームに支えられているからこそ可能なのです。今後もセンター内の諸々のサービスにとどまらず、こうした民間の地域精神保健福祉活動が県下各地で展開できるようセンターの役割に期待致しています。又、最近では、当事者らの自助グループ（和精連）が結成され、事務局がセンターに置かれています。当事者グループの活動をしっかりと応援することで彼らの回復力と自己価値観を高めるとともに、一般県民の精神障害者に対する偏見の除去につとめられるようにお願いします。



第3弾は、紀北からの報告です！

「伊都、橋本地域の精神保健福祉を取り巻く現状」

平成12年度から、精神保健福祉を担当する係は、伊都振興局 健康福祉部 生活福祉課 障害保健福祉係に位置づけられました。課の組織は保護係（生活保護担当）障害保健福祉係の二つの係で構成され、生活保護、知的障害、身体障害、難病特定疾患、精神障害についての業務をおこなっています。それぞれの担当は独自の専門業務をすすめています互いに連携しあい、技術や情報の提供を行い課内でのネットワークの構築を図っています。また、その担当が端末となり市町村へつながり地域の住民サービスへと輪をひろげています。

それでは、現在健康福祉部生活福祉課精神障害関係で実している事業を紹介します。

1 こころの健康相談

管内の住民の精神的（心の）健康の保持増進を図ることを目的とし専門医（精神科医）や精神保健福祉士相談員、保健婦がさまざまなストレスに悩まされている方や、心（精神）の病気や障害を持たれ、医療や生活、就労のことなどでお困りの方の相談を受けています。

なお、専門医の相談は、毎月2回予約制で実施しています。

- (1) 第2木曜日 14:30～16:30
- (2) 第3金曜日 15:30～17:00

精神保健福祉相談員や保健婦の相談については随時受け付けています。

この相談を広く知ってもらい活用いただくために、管内の市町村広報に定期掲載をし、案内を行っています。

2 精神障害者ディケア教室

回復途上にある精神障害者の社会性を養い社会適応を図る事を目的とし、月2回、料理実習やレクリエーション等を実施しています。参加対象者は、通院治療を受けておりその主治医が参加可能（必要）と認めた方や保健所長が適当と認めた方としています。

- (1) 第1水曜日 10時～
- (2) 第3水曜日 12時30分～

年間の計画はスタッフ、参加者と話し合い決定しています。無理のないかぎりにおいて参加者の自主決定を促しています。

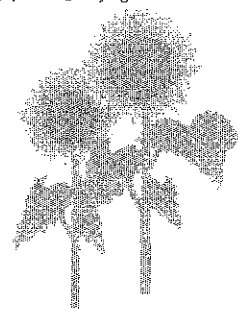
3 精神障害者家族教室

精神障害者を家族に持たれる方を対象に正しい知識の普及やご本人への対応を学んでいただき、精神障害者の病気の早期回復と再発を防ぎ、ともすれば孤立しがちな家族同士が出会い、手をつなぐことで家族が元気を取り戻し精神障害者の一番の協力者になることを目的に、年4回、精神科医、精神保健福祉相談員、地域家族会員、メンバー及び作業所指導員などの講義やロールプレイを実施しています。

4 地域家族会や患者会の育成支援、小規模作業所の指導、支援

管内には、従来橋本市を中心にした精神障害者家族会「希望の会」が活動していますが、家族教室の開催や心の健康相談、保健婦の個別訪問から、周辺の町村の家族の入会がすすんできています。それと共に「自助グループ」としても精神障者の一番の理解者としての認識や活動も活性化してきています。今後も家族の自主性を引き出し、タイムリーな情報提供や市町村とのパイプ役など側面援助を継続していきます。

平成10年度からは、ディケア教室から自立した当事者やディケア教室に参加した当事者を中心に患者会「ドレミファ会」が結成され、会報発行やレクリエーション活動及び県下の患者会との交流など活発に活動を行っています。この活動に対し、集会の会場提供や活動への助言を保健婦がおこなっています。精神障害者が利用出来る中心的生活援助資源として、「憩いの家作業所」（小規模無認可通所授産）が橋本市に開所されています。登録人数は23名となっていますが、不定期な利用者を含めると40名近くの仲間が就労訓練や仲間づくり、又自助グループ（たけのこ会）活動、昼間のレスパイト（休息）の場、くつろぎの場として利用しています。今後利用者の増加やニーズの多様化に対応していくために平成11年度から作業所運営委員会を設立し、もともとの運営母体である家族会と連携協力や、利用者の保護者会を結成するなど近い将来当事者やその家族が安心して活用でき、精神障害者はもちろんのこと、他の障害者や高齢者、子供達やその保護者が利用できる拠点として「法人化」へむけての活動を推進しています。



5 普及・啓発

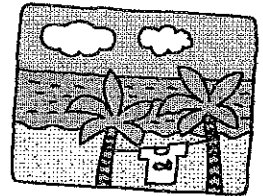
相談員や保健婦が市町村、教育関係機関などに働きかけ、心の健康について研修会や学習会を実施し、講師やアドバイザーとして出席。住民の「心の健康」の保持増進、「心の病気」の発病予防、「精神障害の正しい理解と地域協力」等を目的に普及・啓発に努めています。また、ノーマライゼーション・バリアフリーの理念に基づき、毎奇数月に1回「橋本伊都地域交流会」を開催。精神障害者に関わる専門職のみでなく、教職員、職安担当者、他の障害者の家族、担当者、介護支援センター職員・職親さんなどあらゆる分野から有志が集まり、実践に即応出来る事例の検討や協力連携し、学習を行っています。

6 訪問

主治医からの依頼や、家族本人からの希望等をもとに担当保健婦が中心になり在宅の精神障害者やその家族、必要に応じては入院中の障害者やその家族についても行っています。また、嘱託医、主治医、クリニックワーカー、生活保護担当者、他障害担当者、市町村保健婦(担当者)、作業所指導員及び精神保健福祉相談員がそれぞれ同行訪問を実施しています。

7 管内や周辺地域を見回してみ

- 医療資源 (1) 精神病院 1施設 午前、午後診療(月～土) 入院設備あり(120床)
(2) 総合病院 1施設 午前診療 週2回(火、金) 外来のみ
(3) 精神科クリニック 1施設 午前、午後診療(木、土除く) 外来ディケアあり
(4) 無認可通所授産施設 2施設 (内1施設は知的障害者施設)
- 相談窓口 (1) 健康福祉部
(2) 市町村担当窓口
(3) 各精神科医療機関
(4) 精神障害者作業所



しかし医療資源については隣接する他府県の資源を有効に活用し、少ない資源が相互に協力連携し一つ一つの出来事や関わりを大切に、そこを始点にゆっくりではあるが「確実なネットワーク」が形成されつつあり、なによりも「人」として「生活者」としてその人らしく生きていける地域を創る事を目指し、それぞれの分野の人達や当事者、家族が日々悩み苦しみながらも、改善されつつあります。これからの伊都橋本地域に注目していただき、他の地域からのご支援、応援並びにご指導をこれからもよろしくお願ひいたします。

研 修 会 の 報 告

5月27日に「思春期精神保健研修」を開催

“思春期の問題とその対応について” 和歌山信愛女子短期大学保育科助教授 関根 剛

“思春期と幼児期のこころとからだ” 北九州津屋崎病院思春期内科部長 森 崇

2人の講師からそれぞれ熱のこもった講義がされました。

81名の保健・医療・福祉の各分野の方々からの参加がありました。受講動機は、テーマに興味を持った・知識を広げたい、深めたいが多く、受講後実践へ応用していきたいという方が63%いらっしゃいました。今年で2回目になります。思春期という今、最も注目されているテーマです。今後どのような研修を望まれるか、担当者までご一報いただけるとうれしいです。

今年度2つ目の研修は7月12日「精神保健福祉関連新任者研修」でした。予定していたより参加者も増え、会場を変更しての開催でした。精神保健福祉業務に従事して概ね3年未満の方を対象にし、精神保健福祉の歴史(朝井センター長)・和歌山県の精神保健福祉制度(中川PSW)・精神疾患の理解(県立五稜病院生駒医師)・地域で共に生活する精神障害者(東牟婁振興局健康福祉部古座支所の前田保健婦)と内容も盛りだくさんでしたが、最後のグループワークまで熱心に取り組んでいただきました。職業安定所の方の参加もあり、当初の裏の目的であった、「いろんな職種が集まると、地域で暮らす人達を支えることができると実感できる」ことができたのではないかと思います。この研修は、

次回より基礎編・応用編などに分けて実施していく予定です。



全国の主な研修会・学会のお知らせ

日程	名 称	開催地	主催又は連絡先
8/4~5	日本アルコール精神医学会	神奈川県相模原市	北里大学東病院・精神科 0427-48-9111
8/10~12	日本思春期学会	東京都	東京女子医大第二病院産婦人科03-3810-1111
8/19~20	日本カウンセリング学会	福岡県久留米市	久留米大学・文学部(予定)
8/25	精神保健ボランティア全国のつどい	岩手県盛岡市	岩手県精神保健ボランティア連絡会 019-622-6955
9/13~14	日本精神障害者リハビリテーション学会	北海道帯広市	帯広ケアセンター 0155-59-2739
9/23~25	日本デイケア学会	埼玉県大宮市	日本デイケア学会事務局 03-3847-9151
10/7~8	全国精神障害者団体連合会沖縄大会	沖縄県那覇市	ふれあいセンター 098-864-0408
11/16~17	全国精神障害者家族連合会全国大会	静岡市	県精神保健福祉連合会 03-3845-5084
12/2~3	関西アルコール関連問題学会	和歌山市	関西アルコール関連問題学会 073-435-5194

今年度から、和歌山県でも障害者介護等支援サービス(ケアマネージメント)体制整備推進事業と精神障害者訪問介護(ホームヘルプサービス)試行的事業が開始されます。精神保健福祉センターは、それぞれの養成研修の実施機関となり、このセンター便りが皆さんに届く頃には研修は始まっていることと思います。

・精神障害者介護支援専門員(ケアマネジャー)養成研修 2日間

7月31日(月)

ケアガイドラインの意義と理念 鳥取県精神保健福祉センター 所長 原田 豊

ビデオ「精神障害者ケアマネージメント(解説編)」

ケアマネージメントのすすめ方 埼玉県朝霞保健所 精神保健福祉相談員 広沢 昇

8月 1日(火)

ケアアセスメント票とケアプランの作成 I・II

愛知県瀬戸保健所豊明支所 精神保健福祉相談員 辻築久子

ビデオ「精神障害者ケアマネージメント(実践編)」

ケア会議のすすめ方 島根県精神保健福祉センター精神保健福祉相談員 石田健一

11月 6日(月) 予定

ケアマネージメント試行事例の報告と問題の共有化及び質疑

・精神障害者訪問介護員(ホームヘルパー)講習会 2日間

8月5日(土)

精神障害者に関する行政施策 和歌山県健康対策課 精神保健福祉相談員 長島 隆

精神障害者の福祉制度について 和歌山県精神保健福祉センター 精神保健福祉相談員 中川浩二

精神障害者に関する基礎知識 紀南総合病院 新庄別館 別館長 川崎 元

精神障害者へのホームヘルプサービスについて 田辺市社会福祉協議会 ホームヘルパー 大畑誠子

和歌山県精神保健福祉センター 保健婦 山本昌代

8月8・9・10日(いずれか一日)

施設研修 やおき福祉会八起き工房・ゆうあいホーム

おすすめします。図書、ビデオ。

センターの図書館にある書籍やビデオ、書店に並べられた新刊などをみなさんにご紹介します。

「ビデオ版 精神障害者ケアマネージメント」

ケアマネージメントはテキストを読むだけではなかなかわかりにくいものです。このビデオではケアマネージメントについての知識がない方でも実際の映像を多用して、その内容がよくわかるように工夫されています。解説編ではケアガイドラインに基づく精神障害者ケアマネージメントをわかりやすく解説し、実際編では実際にどのように進められていくのか、特にアセスメントからケア計画の作成までをドラマにすることで、ケアマネージメントの実際的な側面が理解できるようにつくられています。

第1巻 解説編 38分

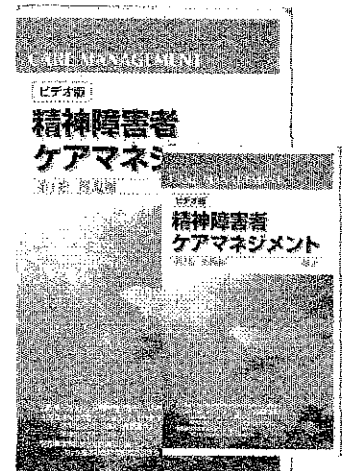
第2巻 実際編 48分

各 9,000円

監修：厚生省大臣官房障害保健福祉部精神保健福祉課

制作：精神障害者社会復帰促進センター

出版：全国精神障害者家族会連合会



編集雑記

研修会の準備とやらで、ずいぶんとセンター便りにかかる日数が過ぎてしまい、原稿をお願いした方々には、大変ご迷惑をおかけいたしました。今後も頑張って発行していきたいと思っておりますので、原稿依頼されてしまった方、どうかよろしくお願ひいたします。次回は10月です。 編集長M